

# ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 232



\*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。  
(書名の後の () の数字は請求記号です。)

問) 召集令状について調べたい。

答)  →  と入力して検索 ⇒ 282件ヒット

件数が多いので絞って調べたい場合…



画面上部の 資料の種類: 図書 に  ⇒ 238件ヒット

さらに 場所: 開架 に  ⇒ 27件ヒット

『写真でみる 太平洋戦争とくらし・道具事典』(210.75/W37/1) 開架児童書

『少国民たちの戦争』(916/Sh56) 開架一般

ポイント! 召集令状は数種類存在し、その中の一つ「臨時召集令状」は赤色の用紙を使用していたため「赤紙」と呼ばれていました。「赤紙」という言葉でも検索してみましょう。

『赤紙』(393.2/097) 開架一般

『戦争とくらしの事典』(210.75/Se73) 開架児童書

『目でみる戦争とくらし百科 2』(210.7/Sa67/2) 開架児童書

臨時召集令状の復刻版は下記資料で確認することができます。

『平和への伝言』(210.75/F68) 閉架一般

7階常設展示室「家族の別れ」に臨時召集令状の複製が展示されています。

ぜひこちらもあわせてご覧ください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。  
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。  
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

## 八丈島からの本土疎開

都心から南へ約 300km の太平洋上に位置する八丈島。戦時中は「本土防衛の前線基地」の 1 つとして重視され、昭和 19 年（1944）6 月からは陸海軍部隊の来駐が相次ぎました。

翌 20 年に入ると八丈島も米軍による空襲を受けるようになり、3 月に小笠原諸島南端の硫黄島が陥落。戦局の悪化をうけて、八丈島民の本土疎開も本格化されていきます。疎開には、親戚縁者を頼っての「縁故疎開」と、都のあつ旋による「集団疎開」があり、全島民の約 7 割にあたる 5,853 人が住みなれた島を離れました。

疎開には陸軍の輸送用艦船や民間徴用船が用いられましたが、潜水艦が用いられた例もありました。軍人や軍用貨物を運送した帰りの船を利用し、島民は 100 人単位のグループに分かれて食料のほか布団などの家財道具を抱えて乗船し、島東部の<sup>かみなと</sup>神湊港（海上不良時は島西部の<sup>やまね</sup>八重根港）から一路、横浜を目指しました。10 時間にもわたる船旅のため、甲板で灼熱の暑さに悩まされたり、船酔いに苦しんだりする島民も見受けられました。

横浜到着後は各々の疎開先に向かいましたが、集団疎開する島民は上野や新宿など都内各所にある施設に收容された後、多摩地域の氷川・檜原や長野県の軽井沢・御代田などの疎開地に向かいました。『八丈島の戦史 改訂版』『戦時下の八丈島』には、「本土到着直後に横浜空襲に遭い、家財道具を焼失した」、「都内滞在中に山手大空襲に遭遇し、一命を取りとめた」、「軽井沢に着いたものの、疎開先までは 4km もある雪道を歩かねばならなかった」といった島民のさまざまな体験が収録されています。本土から遠く離れた島しょ部からの疎開は、その途上にも大きな困難を伴うものでした。

米軍上陸前に終戦を迎えたため、八丈島が戦場になることはありませんでしたが、本土疎開した島民たちが帰島できるようになったのは、昭和 20 年（1945）10 月です。翌 21 年 1 月までに 5,333 名が八丈島への復帰を果たしました。

参考文献：『八丈島の戦史 改訂版』（213.6/Y19 開架書棚）  
『戦時下の八丈島』（210.75/Y19 閉架書庫）

神湊港（東京都八丈町）令和元年



ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 232

2020 年 4 月 20 日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1